

# 土湯峠を起えるまで

(昭和十三年十月十五日全通)

## 福島縣廳土木課

土湯峠を自動車にて越すなどは夢の様な話だと世間の人から極く最近まで一蹴されて居た事柄が實現し、座し乍ら雲層を突き抜けて、土湯峠を越ゆる事が出来る様になつたのも、矢張り時勢の然らしむる處だらうか。福島市附近から吾妻連峯を眺むれば、左の方に當り連峯の終端荒川の溪谷に當り、安達太良連山との中間に一番低く見える處が今越えんとする土湯峠であります。今は昔八幡太郎義家が阿部貞任一族討伐のため此の街道を會津より攻め入りたために岩弓の故事や、陣場古戰場等の名稱が今尙舊道に残つて居る。此の外戊辰の役の際は、戰略上土湯温泉に火を放ち、鬼面山の麓なる小峠にて大激戦があつたといふ様に軍事上

にも會津と福島との連絡には、相當重要視されてあつた。加之産業上には唯一の道路として利用されたのである。會津地方の天領に於ける上納米は本街道より土湯を経て、福島より船運にて荒濱より江戸へ、運び海産物は荒濱方面から、會津へ運搬されたといふ話である。其の頃は土湯温泉は段盛を極めたる由、明治二年偶々凶作のため地方民救済の目的を以つて本街道の改修を行ひ、勞賃として、大人一人に付き玄米三升宛を支給し、土湯より沼尻間を、大部分幅員二間に改修し、面目を一新し、益々利用されるに到つた。翌三年より土湯及横向には、問屋及陸運營業を開始し、横向温泉にては、明治十八年より許可を得て人馬繼立(仲

繼ぎ)營業を行ひ横向土湯間一人足(持量七貫目)七錢馬一頭(馬荷駄量目四〇貫)十錢の賃金を受けてあつた。

横向温泉にては明治七年郵便御用取戻申付られ現代の郵便局と同様のものが明治十七年八月迄設置せられてあつた。其の後東北本線の鐵道開通し又中山峠改修實現等のため會津より福島へは本街道によらず中山峠より本宮町經由に變り當時毎日牛百頭以上も往來せし、面影も失せ、明治二十一年には陸運營業も廢止するに至り横向温泉の如きは全く寂莫たるものであつた。

其の後本街道の荒廢甚しく充分利用出來ぬのを遺憾とし大正五年地方の有志中ノ澤温泉に集合の上福島迄實地踏査を行ひ、郡道



編入並改修の儀を其筋に請願し次いで大正十年信夫耶麻郡會議員、福島市會議員沿道の各町村長各位の第二回の實地踏査を見るに到り直ちに實地測量を行つた。

大正十四年頃には福島若松間電車建設の計畫があつた。其の後昭和二年五月福島市會議員沿線の關係者一行は猪苗代町に集合同方部の關係者と合して横向温泉一泊の上實査を遂げ、縣道編入並改修の儀を陳情するに至つた。

其の當時は、郡山市へ縣廳移轉問題が喧しく稱へられて居た時代である。念願達せられ昭和四年十二月縣道に編入せられ同十一年九月指定府縣道となつた。

福島土湯間自動車全通したのは、昭和六年十二月である。自動車の出現は交通上劃期的變化を

きたし、道路さへ改修すれば時も登れると云ふ觀念を起さしむるに到つた。

それで地方の人々の要望もだし難く、昭和七年産業開發事業として、國庫補助を得て拾壹萬七千圓の工費により沼尻、横間改修の計畫を樹てた。當時の知事は村井さんでした。沼尻横間間は、岩弓溪谷を除いては左程困難の處も少かつたけれ共横間土湯間の計畫には相當苦勞もあつた。昔測量した圖面は郡役所廢止に伴ひ、遂ひに見當らなかつた。止むなく道なき雜林地帯や熊笹が六、七尺も繁つて居る竹藪の中を踏みわけ／＼幾回ともなく山登をして山に親しんだ。急坂を如何にして上るかといふのみでなく峠一帯は火山帯にて地質が脆弱のため土砂崩壞の箇所多く造つた道が直ぐにも崩れそうな處が多いので、此れを避けねばならなかつた同時に東鴉川、西鴉川の崩壞する區域を如何にして渡るかを研究せねばならなかつた。加之峠は海拔一千二百四十米もある處なので、冬季は降雪が三、四十尺も積り『なだれ』が来るのを防がねばならなかつた。尙途中に

ある温泉地帯を連絡する事も考ふる必要があつたが熱湯がふき出して、其の處置に苦心した處もあり、濕地帯も渡らねばならなかつた。最初地方の希望としては、土湯温泉を貫通し、荒川の左岸に沿ひ、其の上流の川上温泉附近より幕の湯の近くにて、荒川を渡る事を熱望してあつた。其れ故に當時の土肥土木課長は横間方面より荒川の左岸を實査せられた事があり、盛夏の頃とて、草木に反射する暑熱のため平地よりも一層暑苦しさを感じた。流汗淋漓爪先き上りの急坂をよち登つて頂上近く達し峯の内一番低い處を峠の頂上に選定した地點を見るため僅五百米程の區間を精斷するの二時間もかゝつた。如何に其の笹竹が繁つて居るかゞ想像される事でせう。従つて、測量には一方ならぬ難澁があつた續いて、昭和七年夏巨救事業施行せらるゝに至り特に赤木知事の御盡力により土湯、横間兩方面より着工するに至つた。其の後縣費單獨或は凶作對策又は東北振興事業として國庫の補助を得て、昭和七年九月着工より同十三年十月竣工に至る迄で前後七ヶ年工費五十三萬七千圓總

事業費五十八萬圓、國庫補助十九萬三千圓使用人員三十七萬三千人を以つて延長三〇軒の區間を幅員五米五〇に改修するを得たのである。途中完成を急ぎたるため築造方法にも不備の處少からず今後の補修に待つ處多きを遺憾とするものである。着工當時は、經濟界不況のため失業者横出して救濟事業を起した頃であつた。此の時より一般に直營施行を實行するに至つたもので、此の改修事業も僅の區域を除いては、全部直營を以て完成に致らしめたものである。

工事區域附近には、人家殆んどなく使用人員は凡て他の地方から移住せしめねばならぬので、労働者を招集する事が最も困難でありました。其の當時縣内には移住までして、施工する様な大工事は少なくあつたにしても此等は凡て職業的の土工人夫に依らねばならなかつた。一般の農家から就役するに至つたのは、其の後直營工事を理解し、危険の無いことを認識してからである。最初は東京方面の失業者と石城炭礦（當時不況のため）方面の失業者と合計約三百人以上を就役せしむるを得た、然し此等の労働者を指揮監

督するのには、一方ならぬ苦勞があつた。警備員も配置して監督員の護衛をなさしめた。七年の十月頃であつたらうか東京方と石城方の労働團體の大喧嘩をなし眞夜中四更も辨せぬ横向附近にて、大亂闘をなし、數名の死傷者を出し一時は鎮壓も出來兼ねる状態であつた。其の他労働者の内には、亂暴狼藉する者ありほと／＼困り抜いて、遂に横向温泉地内に臨時巡查駐在所設置を見るに至り警察の威力により取締りを嚴重にして、不逞の徒を排撃して、工事の進捗を見るに至つた。其の後労働者賃銀値上問題にて、事務所を包圍せられ將に襲撃されんとしたる以外格別なる事もなく平穩に工事を進むる事が出來、工事の實績を聞き傳へて進んで労働に従事する者がある様になり労働者の素質も改善せられ素朴なる人物を得る事が出來た。然し労働者の不足には依然として、終始悩み抜いたのである。

工事費豫算も連續成立を見たのであるが、其の時期が四月早々から着工出來る事が少なく何時も七、八月頃となるので労働者の募集が尙一層困難ならしめたのである。寒氣

と積雪のため工事期間も五月中旬より十一月上旬に限られてあり人里離れた深山に於ける作業は、血の滲む様な涙ぐましい苦勞があつた。それがため監督員一名は犠牲となり現職のまゝ病歿したのであつた。然し幸にも工事に於ては監督員の周到なる注意により死者一名もなく大した負傷者もなかつた。

福島市より自動車にて約四十分にして土湯峠口に至る途中吾妻富士の英姿が車窓より聳えて居るのが見える峠口より僅にして峠の遠望が窺はれ暫らく落葉松の密林を疾走すれば前面には綺麗な圓がたの箕輪山が現はれ東鴉川溪谷を過ぐれば左の方に糸瀧が山腹に懸つて居るのが見える此の附近は豁達として信達平野が一望の内にあり信天山が中央に浮島の様に見える様になる。車の走るにつれて、眼界は益々廣くなり吾妻連峯は手に取る様に近くなつて来る。間もなく前面に鬼面山が現はれ西鴉川の難工事の跡を偲び尙進めば、鬼面山の形態は益々面白く麓には天狗の庭と稱する奇景の箇所がある。間もなくして野地温泉に到る胃腸病

の名湯として、人々に膾炙せらるゝ處である。尙進めば左の方に噴煙の上る鷲倉湧谷の奇觀を望む事が出来る。

往古火山爆發の跡の見受けらる。明治九年頃より硫黄採掘の計畫があり其後温泉白土を採取して東京市内の浴場に廣く使用せられた時代もあつたが本年四月二十八日大崩雪のため鷲倉温泉宿舎倒壊流失し、手數年間深山に立籠り臥薪嘗膽漸く基礎を造つた當温泉女主人は可憐にも犠牲となつた跡である。尙僅にも吾妻山登山口となり峠の絶頂に達する峠は海拔一千二百四十米前面に盤梯山を望み。裏盤梯の檜原湖等を遙に眺むる事が出来る峠から先きは下り勾配となり晴天の日には遠く猪苗代湖を幽に望む事が出来る。横向温泉は脚下にあり、松枝角民冬季遭難の地を経て、途中箕輪山や弓溪谷の勝景を過ぎれば安達太良山の爆發の跡が歴然と見ゆる今は硫黄の産地として有名である。此處より猪苗代町へは約三十分にして達する樋ノ口から右折すれば裏盤梯の勝地に達する。本街道は峠迄は上勾配にて自動車にては燃料も相當必要なるも下りは殆んど燃料を要しな

いし路面が次第に改善せらるれば福島若松兩市間運行の自動車は通行するものが次第に多くなつて、来るものと期待する斯く巨額の工費を投じたる本道を山林開發其他産業上

にはた觀光上に或は温泉療養上に遺憾なく利用せられんことを希ふ。(文責土木課安部)

## 昭和十二年道路愛護週間實施經過

秋田縣廳土木課

縣民の勤勞奉仕に依り道路の維持修理を爲し其の保全を期するは一般交通上、産業經濟の振興上將又軍事國防上其他經濟保安上の利益を得るのみならず社會教化公物愛護の上に裨益するところ尠からざるものあり。

本縣に於ては昭和三年五月、道路愛護獎勵規程及道路愛護會作業方法を告示し、道路愛護會の組織を促し、常に其の區域内の道路に關する維持保全の狀況其の他の成績を考查し、毎年五等級に分ちて褒賞し又別に道路に關する篤行者を表彰し來りたる所、昭和十二年に至り、道路愛護

會總數一百七十餘團體の多數に及びたるを以て、其の指導誘掖上に鑑み、道路愛護獎勵規程を道路愛護會規程と改正し特別の事由あるものを除き一市町村一體に改めたり、而して現在一百四十餘團體あり、常に其の區域内に於ける道路の維持修理側溝の浚渫、交通障害の除去、災害防止の措置等を講じつゝあるを以て其の成績顯著なるものあり。

昭和十二年に於ては、道路愛護會不斷の奉仕に加へ、舉縣的勤勞奉仕に依る道路愛護作業を爲すことの一層効果的なることに想到し、八月二十一日より同三十日迄十日間を